



団体概要

名称 株式会社 ストーンワークス
所在地 鹿児島県曾於郡大崎町
野方2980番地1
URL <http://www.stoneworks.co.jp/>
設立 平成2年10月
資本金 5,000万円
従業員数 20名
代表者名 上中 誠
主な事業内容
(1) シラス緑化基盤・シラスタイル・シラスブロック
(2) インテリアグッズの製造
(3) 人造大理石等の製造・販売

火砕流堆積物「シラス」の初の工業製品化に成功した 職人魂と研究者との運命的な出会い。

常に物づくりに
挑戦し続けてきた

ストーンワークス社長の上中氏は、神奈川の工務店で左官見習いとしてスタート、その後高度成長期に独立を果たし、左官業を始めました。当時を振り返って「あの時に学んだ職人魂、物を作り上げる喜びが、その後の基本になっています。教育し育ててくれた師匠には今でも心から感謝しています」と語っています。上中氏は鹿児島に戻ってから、左官業を営みながら人造大理石の製法を独学ではじめ、上京して専門的に学ぶほどになり、ついには人工大理石の製造・販売の会社として平成2年に（株）ストーンワークスを設立しました。

「人工大理石の製造ができた時は本当にやりたかったことを見つけた気がした」と思い、業績も順調に伸び続けていたが、その後輸入石材の増加、公共事業の低迷などが業績を圧迫し始めました。しかし、物づくりへの思いが衰えなかった上中氏は、

ニーズにあった商品こそが会社存続のキーワードだと思い、エコ商品開発に着手しました。

そのエコ商品開発こそが、その後の人生も一変させるきっかけの企画になるとは思ってもいないことでした。「開発を考えたいたエコ商品は、リサイクル不能な廃ガラスを原材料にしたもので、商品化にデータ分析が必要でした。それを依頼するために訪問した鹿児島県工業技術センターで袖山主任研究者と出会い、持ち込んだエコ商品開発がどこかへ行ってしまおうほど二人で、シラス製品づくり」に集中したことが、今考えるとすごいことだったのです」と上中氏は話されます。

厄介者といわれた「シラス」との 出会いと製品化への執念

袖山主任研究者はシラス研究では第一人者と言われる研究者ですが、出会った当時の上中氏は知る由もありません。「経営的



れ、崩れやすいため毎年大雨のたびに災害が発生して、地元では「厄介者」と呼ばれていました。これまでも多くの研究者や企業が災害対策や利用法の開発などに着手してきましたが、有効な成果が生まれず「工業製品化は、夢のまた夢」とまで言われてきたものです。

「何回か袖山主任研究者とお会いして2〜3カ月後にはすっかりシラスの製品化に魅せられてしまい、私がさまざまな技術を駆使して試作品を作って届けると、夜中に工技センターから分析結果が届くということの繰り返し。睡眠2〜3時間は当たり前で土日はもちろん休んだのは元旦だけというくらい打ち込みました」それほど結果はいつもしばしば、その原因はわからないままかと思われた時、偶然の出来事から生まれた逆転の発想からついに実験に成功したのです。

「研究と実用は違うものです。私たち企

業は、実用化できて初めて成功といえるのです」と上中氏。約1年かけた苦闘の末つかんだ実験の成功を受けて、今度は実用化へ向けての試作品づくりが始まりました。試作の条件に最適なプレス機を探し回り、やっと見つけた中古の機械で試作を繰り返して、製品化のめどが立ったのが翌年の秋。工技センターにエコ商品を持ちこんでから実に1年半後のことでした。「シラスの含水率によってセメントの分量や圧力のかけ方など細かく異なります。製品化に成功してしまえば、こんなもの。かもしれないが、そのノウハウをつかむまで試行錯誤の連続でした」。上中氏は当時の苦しさのかけらも見せずにこやかに話されます。

製品化は通過点、 更なる可能性を求めて

「シラスの工業製品化に成功はしました

が、多くの人たちが研究や商品化にチャレンジしてきた分野です。それに、今も災害は絶えませんから、製品化に成功をしたからといって浮かれた気持ちではいられません。製品の成果を見極めながら慎重にPRから始めているところです。原材料は無尽蔵に近くらいありますので、緑化基盤材だけが製品化に成功した商品とは考えていません」と気持ちを引き締める上中氏は、よいものを創るといふ姿勢のもと、全社一丸となってほかにもさまざまな可能性を探っているところだ。若い社員の方たちも積極的に自分たちで考えた試作品を日夜作っていますし、また、製品の耐久性などの経年変化の実験も自社内で行っていて、「商品にも仕事にも寿命というものがある。いつかは衰退したり、なくなったりするものと考えています」。左官業もそうだったからこそ、今ある商品も完成品ではないと、更なる可能性を求めて挑戦を続ける上中氏です。

には苦しい時期で、エコ商品開発にすべてを賭けるくらいの気持ち」だったそうですが、「何回か訪問して左官業で培ったセメントの知識をベースに商品の説明を細かく行ううちに袖山主任研究者が「海砂の部分をシラスに変えられませんか」とおっしゃいました」。これこそが商品開発の方向を全て変えた発端になったのです。シラスは、約2万5千年前に火山の噴火によって生まれた火砕流堆積物で、鹿児島の大半が覆わ



この企業・団体 ここがポイント

- 環境保護・自然保護への取組み
- 地場産業の再生・地元貢献度の高さ
- コミュニティビジネスの展開
- 新技術・新製品等の開発力
- 新しい顧客層の開拓
- 創業・ベンチャー支援